

初めてでも楽しめる  
解説・字幕付き！

# 文楽

文楽協会創立60周年記念  
人形浄瑠璃

B  
U  
N  
R  
A  
K  
U

## 昼の部

よしつねせんほんざくら  
義経千本桜

しいき  
椎の木の段  
すしやの段

## 夜の部

かつらがわねのりしがらみ  
桂川連理柵

ろっかくどう  
六角堂の段  
おびや  
帯屋の段  
みちゆきおぼろ かつらがわ  
道行朧の桂川

写真・青木信一

電光表示板による字幕付きですので初めて鑑賞する方でもお楽しみいただけます。※席によっては字幕が見えにくい場所もございますのであらかじめご了承ください。

令和5年 **10月6日(金)**

【昼の部】13:30(終演予定 16:15)

【夜の部】18:30(終演予定 20:55)

※いずれも開場は開演時間の30分前

会場

名古屋市芸術創造センター

(地下鉄東山線「新栄町」下車①番出口を北へ徒歩3分)  
(地下鉄桜通線「高岳」下車③番出口を東へ徒歩5分)

チケット  
発売

【友の会会員先行発売】……7月19日(水) 9:00～  
【一般発売】……7月26日(水) 9:00～

料金  
【全指定席】

一般

一階席 4,800円  
二階席 3,000円

友の会会員  
障がい者等  
大学生以下

一階席 4,300円  
二階席 2,500円

チケット  
取扱

■名古屋市文化振興事業団チケットガイド  
TEL 052-249-9387 (平日9:00～17:00)  
※受付窓口が混雑するため、7月19日(水)は電話予約のみの受付となります。

■芸術創造センター、青少年文化センター、  
市内文化小劇場等、事業団が管理する文化施設窓口  
(土日祝日も営業) ※工事休館等がありますので、ウェブサイトでご確認ください。

■電子チケット(一般のみ取扱い)

teket

<https://teket.jp/1168/22509>



※事業団友の会会員(前売りのみ)、障がい者手帳等をお持ちの方、大学生以下の方の割引販売は、事業団チケットガイドまたは、事業団が管理する文化施設窓口での販売です。購入時に、会員証、障がい者手帳等、学生証をご提示ください。  
※他の割引との併用はできません。  
※未就学児の入場はご遠慮ください。

<主催>

公益財団法人  
名古屋市文化振興事業団、公益財団法人文楽協会

<助成>

文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(創造団体支援))  
独立行政法人日本芸術文化振興会／朝日新聞文化財団

夜の部

昼の部

義経千本桜

解説 (あらすじを中心に)  
豊竹 希太夫

椎の木の段

口 竹本 聖太夫  
鶴澤 清 允

奥 竹本 三輪太夫  
鶴澤 寛太郎

すしやの段

前 豊竹 呂勢太夫  
鶴澤 清 治

切 豊竹 呂太夫  
鶴澤 清 介

後 豊竹 希太夫  
鶴澤 清志郎



(人形役)

権太倅善太 吉田 玉 峻  
権太女房小仙 吉田 箕一郎  
主馬小金吾武里 吉田 文 哉  
六代君 吉田 和 馬  
若葉の内侍 吉田 紋 秀  
いがみの権太 桐竹 勘十郎  
娘お里 吉田 清五郎  
弥左衛門女房 桐竹 勘 壽  
弥助妻は平維盛 吉田 玉 志  
すしや弥左衛門 吉田 文 司  
梶原平三景時 吉田 玉 輝  
すし買 大 ぜ い  
村の役人 大 ぜ い  
軍兵 大 ぜ い

囃子 望月太明蔵社中

解説 (あらすじを中心に)  
豊竹 芳穂太夫

桂川連理柵

六角堂の段

豊竹 巨太夫  
鶴澤 清 公

帯屋の段

前 豊竹 藤太夫  
竹澤 宗 助

切 竹本 鑑太夫  
鶴澤 藤 藏

道行籠の桂川

お半 豊竹 芳穂太夫  
長右衛門 竹本 小住太夫

豊竹 薫太夫  
鶴澤 清 廬  
鶴澤 清 方



(人形役)

女房お絹 吉田 勘 彌  
弟儀兵衛 吉田 玉 志  
丁稚長吉 吉田 玉 勢

(人形役)

母おとせ 吉田 箕一郎  
女房お絹 吉田 勘 彌  
親繁斎 吉田 勘 彌  
弟儀兵衛 吉田 勘 彌  
帯屋長右衛門 吉田 勘 彌  
丁稚長吉 吉田 勘 彌  
娘お半 吉田 勘 彌  
下男 大 ぜ い

娘お半 吉田 箕一郎  
帯屋長右衛門 吉田 玉 也

囃子 望月太明蔵社中

※出演者の急病ややむを得ない事情により、代役もしくは演目を変更して上演する場合がございます。 ※開演中の写真撮影・録画録音ならびに携帯電話・スマートフォン等の使用は固くお断りいたします。

義経千本桜

椎の木の段・すしやの段

平家は滅亡。しかし、その嫡流、平重盛の子の維盛は生きていて、高野山へ入ったとの噂。京郊外に身を隠していた御台所は幼子連れて高野山をめざし、偶然にも吉野で夫と再会。維盛は、かつて重盛に恩を受けた鮮屋の弥左衛門に匿われ、奉公人に身をやつていました。とは知らずに愛し、夫婦になるつもりでいたのが、この家の娘お里。思いもよらない現実が明らかとなり、こらえられない涙。

二万、兄の権太は、ゆすり、かたりも日常茶飯事の悪党。鎌倉から詮議に来た梶原景時に、討ち取った維盛の首と、捕らえた御台所、若君を差し出し、褒美の金を要求。忠義をほめ、梶原が去るや、激怒して、息子を刺す弥左衛門。

ところが、維盛一家は無事。首は維盛ではなく、連行されたのは権太の妻子でした。維盛の存在とその危機に気づき、これを機に心を入れ替えようと念発起した権太。大きな犠牲を払って、みごとに梶原をだまし、維盛を救うことができた一と思いきや、昔、重盛に命を助けられた頼朝に



は維盛を殺す気などなく、出家させるのが望みで、梶原は偽首と知りつづけ取つていたことが判明。だまされていたのは自分の方だった。権太は、今こうして命を落とすのも、これまでのかたりの報いと悟って、悪事を悔い、絶命。維盛は、誓(もとどり)を切り、妻子と別れて高野山へ。並木千柳・竹田出雲(二代目・三好松洛合作、浄瑠璃三大傑作の二に数えられる五段続きの時代物で、延享4年(1747)、人形浄瑠璃全盛期に大坂の竹本座で初演されました。『平家物語』の中の、都に残した妻子を恋慕いつつ、戦場を去つて高野山で別業、那智の沖で入水した維盛の物語を題材として、奈良県吉野郡下町の老舗「つるべすし弥助」を舞台に「一家の悲劇を描き、愛しい妻子を犠牲にした権太の悲しみが胸に迫る三段目をお届けいたします。

桂川連理柵

六角堂の段・帯屋の段・道行籠の桂川

帯屋長右衛門は、24歳も年下の隣家の娘お半と関係。旅先で、夜中、いやらしい丁稚から逃げて来たお半を、まだ子供だと思つて自身の蒲団の中で寝かせてやつたのが、間違ひのもと。しかも、お半は妊娠。恩のある隣家、妻にはもちろん養父にも顔向けできない、取り返しつかない過ちに、自らを責め、苦しむ長右衛門。それに対し、お半は、妊娠に悩みながらも、小さいときから好きだった長右衛門以外、夫を持つ気などないとのこと。

このスキヤタルを利用して、長右衛門を店から追い出そうと企むのが、養父の後妻とその連れ子。店の金をくすねて、罪を長右衛門になすりつけ、旅先の関係を記した長右衛門宛のお半の手紙を読み上げて、長右衛門を窮地に。それを救つたのは妻と養父。けれども、長右衛門がお半のことを苦にして自害するのではない

かと、不安でなりません。どうか死なないほしい、二人の切なる願いを聞けば聞くほど、辛さが増す長右衛門。死んで詫言はるほかない問題をさらにもう一つ抱えて、すでに死を覚悟していたのです。

この恋を思い切る、そう伝えて去つたお半が残したものは、桂川に身投げするとの手紙。15年前、桂川で芸子と心中するつもりでいながら、芸子の身投げ後、気が変わつて死ぬのをやめた長右衛門は、芸子がお半に生まれ変わって死へと招くように思われ、桂川へ。

昔専助による上下二巻の世話物で、安永5年(1776)に大坂の北堀江子ノ側の芝居で初演。題材は、1761年に京都の桂川で年齢差のある男女の死体が見つかった事件で、真相は不明ですが、月後に心中として人形浄瑠璃化され、その後、宮園節の歌謡になり流行しました。ご覧いただく下巻のうち、「帯屋」では、後半の養父、妻、長右衛門それぞれの思いやりに満ちた真情吐露が聞かれます。後妻親子が派手に動く前半の丁稚との抱腹絶倒のやりとりも、ぜひお楽しみください。道行は、原作にはなく、のちに宮園節から取り入れたものです。

この公演は全ての席を使用します。施設の抗菌コートや換気を行います、マスク着用等の新型コロナウイルス感染症感染防止対策はお客様の判断に委ねられますので、ご了承ください。

中止あるいは内容を変更する場合がありますので、お出かけ前に必ずウェブサイトやお電話にてご確認ください。  
事業団ウェブサイト「重要なお知らせ」またはTEL:チケットガイド052-249-9387(平日9:00~17:00)

